

# 國安寺だより

Vol.14

仏教のまごころを、あなたへ

がんにしきどく

## 願以此功德

### 心眼と金言

厳しい暑さが続いて居りますが皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか？

先日東京からお参りに来られた方も、日中は向こうと変わらないくらい暑いとおっしゃっていました。そんな暑い日が続く中、ご先祖様へ感謝を捧げるお盆の季節が訪れました。

先日、師匠にこんなお言葉を送りました。「まだ解決しないウクライナロシアの問題に中東の戦争、世界では兵士や役人だけでなく一般の市民も犠牲になっている。これらを海の向こ

うの話しとっていないかい？」

私は思わず「いえ思っています」と答えましたが、師匠の言葉の本質は私が思うそれとはまったく違っていました。

通常であれば、戦争はいづ日本にふりかかるかわからない。とか、わが国が戦争にならないためにどうすべきか？といった政治的な話になるかと思っています。しかし師匠は気づけていない私を見透かしたように続けてこうおっしゃいました。

「今我々がお勤めしている功德は何もその方の御先祖様や私たちの御先祖様にだけ向けられたものではないだろう。周りの方、あるいは世界中の方の御先祖様に向けての功德であり、それを理解出来る私でありなさ

い」こう告げられました。

初めは世界中の御先祖様というフレーズにピンときませんでした。私たちがいつも行う勤行にこの一文があります。

【願以此功德】

（がんにしきどく）

【平等施一切】

（びようどうせいいつさい）

【同発菩提心】

（どうほつぼだいしん）

【往生安楽国】

（おうじょうあんらくこく）

日々お勤めされる方や、お参りに来られている方は何度も聞いた事があるフレーズで、この回向（えこう）を聞いてお経が終わると思う方もいらっしゃるかと思います。

私は毎日この回向を読み上げています。にも拘わらず、師匠の言葉を表面だけで捉えてしまい、仏教に触れている者としてすぐに気づけなかった自分が恥ずかしく思えました。

浄土真宗では私たちの功德ではなく、阿弥陀様の本眼力を信じる心を抱いて欲しいと説かれています。安楽国（極楽浄土）におられる私たちの御先祖様への感謝、そして生きとし生けるものが皆すべて等しく浄土へ向かえるよう、日々お勤めを続けたいと思います。

お盆の八月、感謝の八月。師匠の有難いエールを胸に今年もお参りをさせて頂きますので、皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

院代 隆道 合掌

